利用案内

★開園時間　くつろぎの広場　午前９時～午後５時
（ただし６、７、８月は、午後６時30分まで）
旧富澤家　午前９時30分～午後４時30分
（ただし６、７、８月は、午後６時まで）

★休園日　毎週月曜日、12月29日～１月３日、施設点検日（月２～４日程）、その他臨時休園あり

★観覧料　無料〈団体観覧の方は事前にお申し込み下さい〉

★オクノマ等の使用について

○使用資格　団体（５人以上）

○使用可能日　水曜日以外（ただし４月29日から５月５日、その他事業実施時等は除く）

○申込方法　使用日の６ヶ月前の初日より４日前まで、教育振興課他で受け付けます。

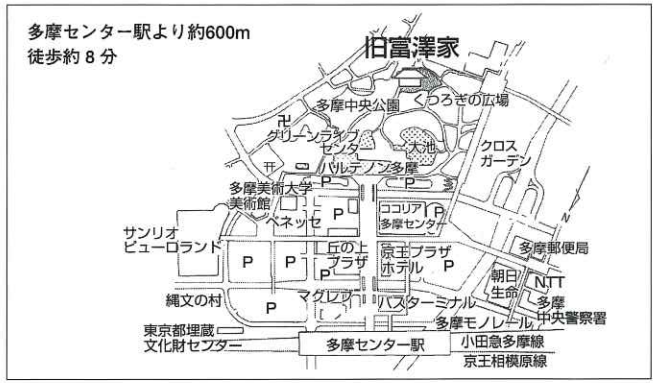
○申込受付時間　午前９時～午後５時

○使用回数　同一団体　月６回まで使用できます。

○使用料等　１時間につき　市内団体730円　市外団体1,460円

○割引制度　早期割引（６～２ヶ月前の初日）と直前割引（６～４日前）があります。この期間の申請をご希望の方は教育委員会窓口で直接、手続きを行ってください。

○使用可能時間　午前9時30分～午後4時30分
（ただし6～8月は、午後5時30分まで）



★場　所　東京都多摩市落合2丁目35番地
（多摩市立多摩中央公園内）

★旧富澤家連絡先　TEL 042-373-0503

★問い合わせ先　多摩市教育委員会

発　行　教育振興課　文化財係
東京都多摩市関戸6丁目12番地1
TEL 042-338-6883（直通）

文化財を大切に

再生紙を使用しています。

旧富澤家住宅

いきいきTAMA

多摩市教育委員会

旧富澤家住宅について

富澤家の家譜によれば、当家の先祖政本は、今川氏の家臣で、永禄３年（1560）今川義元が桶狭間の戦で亡ぼされた後、逃れてこの地に土着した。その後、政本の子忠岐（通称　忠右衛門）が、初代名主を務め、以後、代々連光寺村の名主を世襲した。

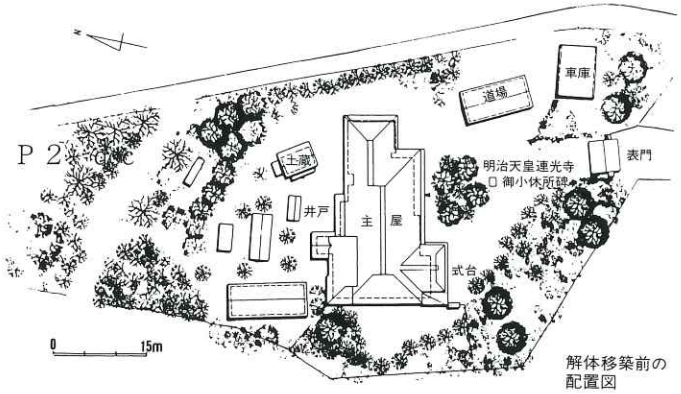
当家は、明治天皇始め皇族方が、明治14年（1881）以来幾度かこの地に兎狩りなどに行幸、行啓した際に「御小休所」として利用された由緒ある家である。

主屋は、文化９年（1812）の屋根葺替の記録から、既にそれ以前に建てられていた事が分かる。建築手法、形式などから、推定建築年代は18世紀中頃から後半と推定される。また、嘉永５年（1852）から明治期に、式台付玄関・客座敷の縁・便所などの改造が行なわれ、移築までに、幾度かの増改築がなされ上層民家としての形を整えたと考えられる。当市内で入母屋造りの式台付玄関のある建物は当家一軒だけである。

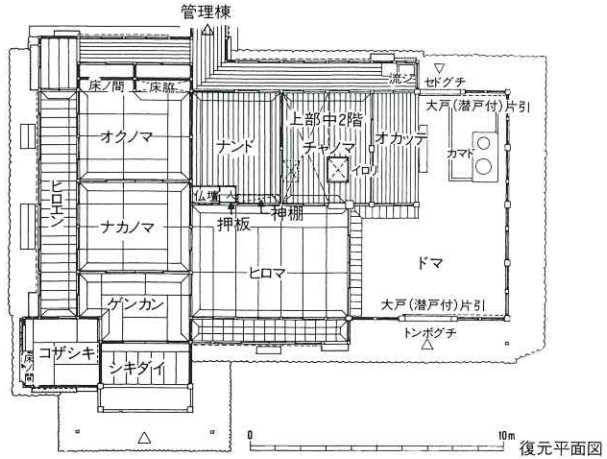
主屋の規模は桁行9.5間、梁行５間である。間取りは上層民家特有の間取りで、客座敷と日常生活とを完全に分離させた広間型多間取である。構造は入母屋造りで、小屋梁の上に小屋束を立てて上屋梁を乗せ、この上に又首を組む。上屋梁と小屋梁の間は、切り又首となるいわゆる下屋造りである。正面と上手（左）側面は小屋梁を外に桔出して角造りの出し桁とし、軒桁を掛けて小天井を張るという工法の船枻造りである。

平成２年５月、多摩市連光寺富澤政宏氏より寄贈を受け、復元移築した。

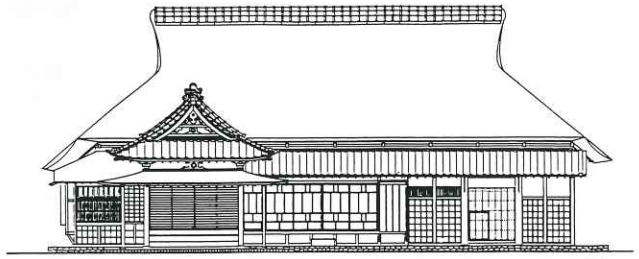
なお、移築にあたっては、屋根の茅葺を銅板葺に変えるなど完全な復元は困難な部分もあり、一部変更し施設の充実に努めた。

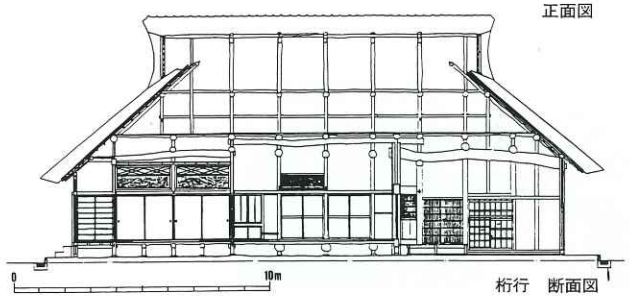


解体移築前の配置図



復元平面図


正面図



桁行　断面図

（1）オカッテ（お勝手）・ドマ（土間）

流シやカマドのある空間をオカッテと呼んでいる。いわゆる、炊事をする空間である。旧富澤家には多くの使用人がいたと思われるので、広いオカッテが必要であったろう。なお、旧来のカマドは２尺用の釜であったが、復元にあたって小さくした。

トンボグチの前のドマは、接客などの場所に使用された空間で、別の呼び名であったと思われるが定かでない。

（2）チャノマ（茶の間）・イロリ（囲炉裏）・中２階

イロリは明り、暖房、煮炊きを兼ねるもので、イロリのあるチャノマは、家族の団欒、食事の部屋であったろう。オカッテとの境には建具が無かった。このため、イロリの脇に座ってカマドの火を管理できた。

天井の一部を下げて中２階を造り、オンナベヤとしているが、これは後に設けたものと思われる。

（3）ヒロマ（広間）・ナンド（納戸）

ドマに接するヒロマは、日常の居室であり、一般の接客にも使われる。この部屋は仏壇、神棚を備えている。仏壇の脇にオシイタ（押板）がある。これは、一般に床の間の原型とも言われるものであるが、この家でどのような使われ方をして、今日に至ったかは不明である。なお、この部屋にイロリのあった確証はない。

ナンドは寝室として用いられた。チャノマとの境にある片引きの板戸にオトシサル（落猿）施錠仕掛けがあり、古くは裏側の開口が無い形も考えられる。

（4）ゲンカン（玄関）・ナカノマ（中の間）・オクノマ（奥の間）

式台付ゲンカン・ナカノマ・オクノマは接客部分である。

式台付ゲンカンとは、封建時代の上層民家や武家など格式のある家のゲンカンに多い形で、床の上に上がるために設けられた低い板敷きのあるものを言う。この家のゲンカンもこの形式で、屋根が入母屋造りの瓦葺きになっている。嘉永５年の屋根替えから明治天皇の行幸された明治14年の間にこの形に改造されたと思われる。

オクノマ・ナカノマは大切な客の訪れたときにもてなす為の部屋で、オクノマには床の間と違い棚の床脇があり、付書院はない。明治天皇や当時の皇族方が訪れたときには「御小休所」として使われた部屋である。

旧富澤家式台付玄関

（5）コザシキ（小座敷）

コザシキは式台付ゲンカンが現在の形に改造された時、新しく付け足された部屋で、恐らく主客について来た付き人の待つ部屋「供待部屋」であったと思われる。床の間は浅く、床脇には地袋があり大きな丸窓は床の袖壁にかかって、日出棚の変形のようである。

かつてのナカノマ・オクノマ

（6）表門

薬医門といわれる。表の本柱２本の内側に控柱２本を建て、切妻屋根をかけた門。解体時、棟木より墨書が出て、元治元年（1864）に建築されたということが分かった。

規模：高さ約５m、間口約2.5m

表門

（7）展示資料

①欄間－「急湍登鯉」

大きさ：彫部・縦42cm×横195cm　枠部・縦94cm×横212.5cm

彫材：柿　枠材：杉、銘：なし

製作年代：不明（伝承では永禄年間・16世紀後半と言われています。）

急流を勢いよく登る鯉の様を彫ったもの。

②襖

(A)「七言絶句」（オクノマ襖絵）

作者詳細不明。嘉永２年（1849）道本筆。

(B)「吉野山桜」（ナカノマ・オクノマ側襖絵）

(C)「竜田山紅葉」（ナカノマ・ゲンカン側襖絵）

四谷延陵画。明治38年８月作成。

(D)「深山白鷹」（玄関面襖絵）

吉澤雪庵画。幕末・明治期の書画家。

(E)「湖畔村居」（オクノマ袋戸棚襖絵）

福島柳圃画。幕末・明治期の画家。

欄　間

C「竜田山紅葉」

①天柱国柱
社殿魏然
法隆寺又
称斑鳩龍

②田之川上多
丹楓樹故人
詠歌飜錦
飜繡形
霽欲燃
川流為
紅矣実
天下之名

③区也
皇軍勝
戦之年
八月
延陵四屋
収写　延陵 詩画

天柱国柱
社殿魏然タリ
法隆寺又
斑鳩ト称フ

龍田ノ川上
丹ノ楓樹多シ　故人ノ
詠歌ハ錦ヲ飜ヘシ
繡ヲ飜ヘス
彫雲燃エント欲シ
川流
紅ヲ為ス　実ニ
天下ノ名

区ナリ
皇軍勝利ノ
年
八月
延陵四屋
収メ写ス　印

D「深山白鷹」

④雪葬　文行 之章　小造 化廬

E「湖畔村居」

修静

①庚辰既望写此日
宿雨新晴茆齋
疎豁有黄葉残
霞来暎机案頗
快人意辰下脱
開冬二字
柳圃老人宣ノ
島寧 之印　号 柳圃

④喰賞 煙霞

印
庚辰既望写ス　此日
宿雨新タニ晴ル。茆齋
疎豁ナリ。黄葉有リ。残
霞来タリテ机案ニ映ズ。頗ル
人意ニ快シ。辰ノ下ニ
開冬ノ二字ヲ脱ス。
柳圃老人宣ノ
印印

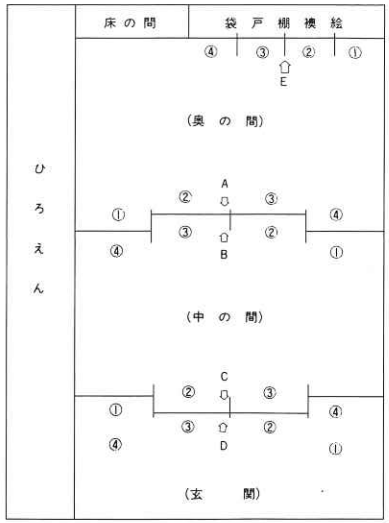
Bと Cの襖は、明治三十八年（1905）七月　作者四谷延陵が富澤家に訪れた際、富澤政恕氏が「吉野山桜」「竜田山紅葉」の絵を注文し、同年八月に当家に届けられたものである。

作者　四谷延陵は、内藤藩家中、四谷恪斉の長男として弘化四年（1847）、日向国延岡（現宮崎県延岡市）に生まれ、大正八年（1919）同地で没した。江戸に出て渡辺華山に師事した福田半香から、画を学んだ。絵画のみでなく、彫刻、漢学にも造詣が深かったようである。

Dの襖は、吉澤雪庵が描いたものである。幕末、明治期の書画家で、谷文晁の弟子である遠坂文雍の門下である。徳川慶頼（田安侯）の侍医兼画師で、山水花鳥に長じ、幕末、明治期の画壇の代表とされる柴田是眞と交わりが深かった。明治二十二年（1889）八十余歳で没した。

Eの袋戸棚襖絵は、福島柳圃の手によるものである。幕末・明治期の画家で、柴田是眞に学び、後南画に転じて、自ら山水に一格を出す。明治二十二年（1889）七十歳で没した。

襖配置図



A「七言絶句」

无欲又赫鶴
鼓翼青雲中

弐樹清標萬古同
風流人物品題中
若非玉色程明道
便是深衣司馬公（上平一東）
嘉永二酉節青朋友日
江浅男山八十二道本

可須 思妙　渓

（二）弐樹ノ清標　万古ニ同ジ
風流ノ人物　品題ノ中
若シ玉色ノ程明道ニ非ズンバ
便チ是レ深衣ノ司馬公ナラン
嘉永二酉　節青朋友日
江浅男山八十二道本
印印

B「吉野山桜」

①天下峯
巒第一
家花
勝人
跡賞

②誉喧忠
臣勇士
千年
魄凝
為
芳

③山
萬
朶
花
日軍戦勝
年　立秋
日

④日州
延陵半仙
四屋收并
題　延陵 詩画

天下ノ峯巒
第一ノ家　花ハ
人跡賞誉ノ
喧キニ勝ル

忠臣勇士
千年ノ魄
凝リテ
芳山
万朶ノ花ト為ル

日軍戦勝ノ年
立秋日
（明治三十八年
八月八日）

日州（日向）
延陵半仙
四屋収メ并ニ題ス
印